

倫理，政治・経済

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和6年度（第4回）共通テストの「倫理，政治・経済」の問題は，大問が7問で構成され，「倫理」分野から4問，「政治・経済」分野から3問が出題された。設問は，「倫理」分野から16問，「政治・経済」分野から16問であり，設問はすべて単独科目からの引用で，配点は50点ずつであった。

ここでは，本年度の問題に対して，「倫理」と「政治・経済」それぞれの科目の問題作成方針に基づいたものになっているかどうかについて評価を実施した。

なお，評価に当たっては，14ページに記載の8つの観点により，総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 思想の継承と批判について（源流思想）

高校生と大学生の会話を基本設定とし，原典などの諸資料を用いながら，思想の継承と批判について多面的・多角的に考察させる大問である。

問1 ギリシア哲学の継承について，プラトン哲学と神秘主義の結びつき，シーア派とスンナ派の分離が生じた経緯など，学習が手薄になりがちな知識事項を含む設問である。そのうえ，やや長い三つの文全てに対して絶対的な正誤判定を求めており，知識事項が基本的でも平易にはならない問題形式といえる。全体的にみて，難易度が高い。

問2 先行する思想を批判した古代の思想家に関する設問である。概ね基本的な理解を問うものだが，「地上の国」「神の国」については説明がない教科書もある。

問3 古代インドの思想と中国の伝統思想との接触を取り上げた興味深い設問である。受験者にとって初見の資料をもとに，会話文でヒントを与えながら，解釈を進める流れになっている。基本用語の理解ができていて，資料と会話文の要点をおさえられれば難しくはない。知識の本質的な理解と資料読解力をバランスよく求める良問である。

問4 イエスの思想に関する理解を問う設問。「ユダヤ教をめぐるイエスの言動」という設問の語句にやや混乱するが，特に正解となる選択肢が正文と判定しやすく，平易である。

第2問 「日本人と平和」について（日本思想）

「日本人と平和」に関して，高校生と祖母の会話，本をまとめたノート，本の内容を通じて，考えを深めさせる大問である。世界が再び平和から遠ざかろうとしている昨今にあり，意義深いテーマであった。高校生が図書館で本を探してノートにまとめるという調べ学習の場面が設定されており，文章量は適切だった。出題範囲は古代から現代までバランスが取れていたが，細かい知識の正誤の組合せを問う，やや難易度が高い設問が含まれていた。

問1 日本の神々と災害についての理解を問う，きわめて平易な設問である。

問2 古代日本の仏教についての説明の正誤を判断する設問である。浄土（阿弥陀）信仰が平安時代末期に広まったこと，源信の時代は称名念仏ではなく観想念仏が中心であったことを踏まえれば解答できるが，難易度が高かった。四択にするなど，出題形式の改善を望みたい。

問3 江戸時代の儒教についての理解を問う良問である。伊藤仁斎をはじめとした古学派が朱子学批判を通じて形成されたことを踏まえれば解答できる。神道と朱子学の一致を説いた山崎闇斎の垂加神道に関する③を選んだ受験者も多かった。

問4 吉野源三郎の原典資料を読解する平易な設問である。初見の資料を単に読解するだけでなく、教科書で学んだ既得知識、倫理的な見方・考え方を活用し、大問のテーマに関する思索の深まりを感じさせる設問となるよう改善を望みたい。

第3問 美の普遍性と多様性（西洋近現代思想）

芸術作品の鑑賞という場面設定から、美の普遍性と時代性、また美に関する自己の個性と他者の評価の関係や、美と社会的不平等の問題などについて、カントやヒューム、ルソーの興味深い資料を提示するなど、西洋近現代の先哲の思想を手がかりにしながら、美について多様な視点で探究する内容で、「倫理」の授業における探究学習の可能性を示す大問となっている。しかし、設問ごとの難易度には少しばらつきがあり、全体としてはやや難易度が高い。

問1 カルヴァンの思想の内容とそれがもたらした影響について問われている。カルヴィニズムに関する確かな知識が求められ、やや難易度が高い。

問2 カントに関する説明と資料の読み取りを組み合わせた設問であるが、説明と資料との関連はやや弱い。資料の読み取りは平易であるが、カントにおける「独断のまどろみ」のエピソードや、物自体と現象の区別を理解していることが求められる。

問3 資料の読み取りからルソーの説く不平等の起源の中に「世間の評判」があることに気づかせるとともに、ルソーの思想における自己保存の欲求や私有財産の問題も理解しているかを同時に確認できるように選択肢を工夫しており、難易度は高いが良問である。

問4 第3問全体の趣旨を問う設問となっている。

第4問 「後悔」について（現代の諸課題と青年期）

高校生の会話文や実験資料、哲学者の資料をとおし、「後悔」についての思索を深める大問である。「後悔」の捉え方を多面的・多角的に考察する工夫がされており、受験者に対するメッセージ性があった。基本的な用語の理解だけでなく、思想家についての細かい内容の理解や、表の読み取り、思考力を問う設問がバランスよく含まれており、全体的な難易度としては標準である。

問1 ハヴィガースト、ピアジェに関する基本的知識が問われている。クーリーの選択肢をエリクソンなどの心理学者に変えることで、受験者の知識をより測ることができたように思う。

問2 (1) ハイデガーの思想に関する設問である。①の説明がやや分かりづらく、そのため解答に迷った受験者がいたのではないだろうか。後期ハイデガーに関する細かい理解が求められた設問であり、難易度は高い。

問2 (2) 哲学者 J. ラズの資料の読解であり、丁寧に読み解けば正答を導くことができる。難易度としては平易であるため、他の資料や会話文との関連などの工夫が欲しい。

問3 会話中の空所に入る文を判断する設問。空所に当てはめる問いとしては標準的な難易度であるため、哲学的な用語や思想の理解を組み合わせるような工夫があるとよい。第4問全体をまとめる高校生の会話に受験者へのメッセージ性がある。

第5問 統治作用を担う団体と市民社会を構成する団体・集団の働き

「統治作用を担う団体と市民社会を構成する団体・集団の働き」をテーマにした政治分野の問題であり、全体の導入部分には場面設定がなく、各設問において場面が設定されている。受験者としては、全体の導入部分を読む負担はないものの、最初に全体の場面設定を見通せず、各設問において場面設定を個別にイメージする負担が生じる点は、今後の課題であると考えられる。出題については、政治に関する考え方や用語の理解等を、様々な資料を読み取らせながら問う形式の設問が多く、全体としての難易度は標準である。ただし、知識を活用せずとも読解力のみで解くことが可能な設問が複数あるなど設問のバランスには課題がみられる。

問1 国家の強制力について、基本的な知識・理解を基にマックス・ウェバーの原典資料を抜

粹した資料を読み取る力を問う，標準的な設問である。

問2 日本の雇用保険と労働者災害補償保険について，それぞれの保険に対する知識の理解の質を問う，標準的な難易度の良問である。

問3 日本国憲法における信教の自由や政教分離の原則に関する規定について，基本的な知識・理解を問う，標準的な設問である。

問4 消費者問題について，基本的な知識・理解を基に消費者団体訴訟制度の導入に関する資料を読み取る力を問う，やや平易な設問である。ただし，読解力のみで正答を導くことも可能である。

問5 日本の会社の組織や責任について，基本的な知識・理解を問う，標準的な設問である。

問6 日本の臓器移植法改正について，知識・理解を基に資料を読み取る力を問う，標準的な設問である。ただし，読解力のみで正答を導くことも可能である。

第6問 経済成長とグローバル化

「経済成長とグローバル化」をテーマにした経済分野の問題であり，場面設定としては，ある学校で，大学教員による出張講義が開かれたというものである。出題については，講義中に配布された資料のテーマから知識・理解を問う設問だけでなく，提示された仮定を踏まえたり，基本的な知識を基にしたりして，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問もあり，全体としての難易度は標準である。

問1 経済活動における付加価値について，国民経済計算に関する知識の理解の質を問う，標準的な設問である。

問2 国民所得の諸概念と三面等価について，基本的な知識・理解を問う，やや平易な設問である。

問3 市場の失敗について，基本的な知識・理解を問う，やや平易な設問である。

問4 汚染物質を減少させる規制について，提示された仮定を踏まえて，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる，標準的な難易度の良問である。

問5 貿易における比較優位について，基本的な知識・理解を基に資料を読み取る力を問う，標準的な設問である。

問6 貿易による国内市場への影響について，基本的な知識・理解を基に思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる，やや難易度の高い良問である。

第7問 国際社会における日本の立場と役割

「国際社会における日本の立場と役割」をテーマにした政治分野と経済分野の融合問題であり，場面設定としては，生徒たちがグループワークを行ったというものである。テーマから連想される論点と，そこからさらに連想されるキーワードを書き出してまとめた図は，「政治・経済」の授業にグループワーク等の活動を取り入れることで工夫するという授業改善へのメッセージ性が読み取れる。出題については，読み取らせる文章や資料は多いが，全体としての難易度は標準である。

問1 ロック，ホップズ，グロティウスの思想について，基本的な知識・理解を問う，標準的な設問である。

問2 インド，インドネシア，中国の人口構成と経済情勢について，基本的な知識・理解を基に資料を読み取る力を問う，標準的な設問である。

問3 アジアのインフラ開発やODA（政府開発援助）について，時事的な要素を含む知識・理解を問う，やや難易度が高い設問である。

問4 宇宙に関する国際法について，基本的な知識・理解を基に資料を読み取る力を問う，標

準的な設問である。

以上の内容から、問題の難易度は適正で、学習指導要領の定める範囲で出題されており、出題内容に大きな偏りはなかったと考える。

3 分量・程度

全体の設問数は、大問数7、総設問数32で、昨年度の共通テストの本試験の設問数と同じ適切な設問数であった。試験全体の分量や文字数についても、「倫理」と「政治・経済」それぞれの問題作成方針を考慮すると適切なものであったと考える。

「倫理」の問題においては、問題全体を通じて、資料の読み取りに基づいた思考力・判断力・表現力等や、包括的知識を問う設問が多く見られた。いずれの大問もバランスよく出題内容や出題範囲が取り上げられており、全体の難易度としては標準である。

「政治・経済」の問題の難易度については、標準的な難易度の設問が多く、適正である。概念や知識を活用して解く設問や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問もあり、良問もみられる。その一方で、正確な知識・理解を基に文章や資料を読み取ることが求められる設問も多く、昨年度に比べ、解答にかかる時間が増加したのではないかと推測される。

4 表現・形式

各設問の文章表現・用語については、受験者にとって適切であった。

「倫理」の問題においては、各設問の文章表現・用語はおおむね適切であった。写真や絵画資料はなく、図表の扱いは適切であった。全ての選択肢について正誤の詳細な判定を求める問題形式は難易度が高くなりがちなので留意されたい。全体をとおして、先哲の思想を基点に、他者との対話によって思索を深めていく学びの過程を表現する工夫が随所にみられ、授業改善に示唆を与えるものであった。

「政治・経済」の問題においては、場面設定について、第5問は、全体の導入部分を読む負担はないものの、最初に全体の場面設定を見通せず、それぞれの設問において場面設定をイメージする必要が生じている。また、場面設定がある第6問、第7問とも、大問の導入部分の場面とそれぞれの設問との関連が薄かったり、それぞれの設問を解く際に活用する必要がなかったりという課題もこれまでと同様である。特に第7問は、学習の過程を意識した探究型のグループワークの場面設定であり、改善を期待したい。

5 まとめ（総括的な評価）

倫理分野の出題においては、倫理の授業における課題や論点を基に、生徒たちが多様な他者と協働しながら主体的に探究していく構成になっていた。高等学校等の倫理の授業者に対して、授業を探究型へ発展させる手掛かりを示すとともに、受験者に対しても、学ぶ姿勢を生活の中で生かすよう促す内容になっていた点に、出題者のメッセージが感じられた。原典資料等の設問の題材もよく工夫されていた。ただ、中には読解力のみを問うものも見受けられたので、資料の活用にはさらなる工夫を求めたい。

「政治・経済」の問題においては、昨年度同様、学習指導要領で求められる知識・技能を基に、それらを活用して資料等から課題を捉える設問や、複数の資料を読み取って、現代社会の諸課題を多面的・多角的に考察させる、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問もみられた。

今後も現状の問題作成方針に沿った良問の作成を期待したい。